

六人目の家族

小坂井西小・6 中西 紘甫

ぼくは今動物病院にいる。家族でねこを飼うことになり、たまたま見つけた里親ぼ集中の中にぼくが飼いたいねこがいた。そのねこは、ソマリという種類であまえんぼうで水が大好きと書いてあった。そのねこは、今は落ち着いているが、ねこかぜという病気をもっていた。それでもそのねこを飼いたいと思ったぼくたちは、飼うために動物病院に来ている。でも、そのねこを飼うためには、動物病院のルールでねこを本当に幸せにできるのかを、担当医の人とお話して何組かの中から担当医の人が決めるらしい。そして、担当医の人とお話をして、

「結果は、後日メールでお伝えします。」
と伝えられた。

そして今日、その結果が届いた。そこには、
「このねこは、中西さんがふさわしいと決まりました。数日以内に引き取りに来てください。」
と書いてあった。その時は、とてもうれしくて早くねこが家に来ないかと待ち遠しくなった。

何日か経ったある日、ぼくは今家の中を歩き回っている。なぜかという今日はねこが来るからだ。もうお父さんがねこといっしょに帰ってくる時間が過ぎているが、お父さんはまだ帰ってこない。そう思っていた時、

「ガチャ」

げん関のとびらが開く音がした。ぼくはすぐにげん関に飛んでいった。そこには、ねこ用のキャリーバックを持っているお父さんが立っていた。すぐにバックからねこを出して毛をさわってみた。初めてねこをさわったあの時の気持ちは忘れない。ふわふわ、温かい、心臓が動くしん動、いろいろなことが伝わってきた。その日は、家族みんな録画したテレビ番組ではなく、ゲームでもなく、ねこに夢中になっていた。ちなみに、このねこは、女の子だ。お母さんが、
「家族みんな男だから、ねこは女の子がいい。」と言っていたからだ。この時まだねこには、名前がない。ぼくたちにはネーミングセンスがないので、祖母に名付けをたのんだ。

次の日、祖母から連らくがきた。祖母が名前を言った。

「さくら。中西さくら。」

このねこの名前がさくらに決まった。

さくらが来てから、特に心に残っている思い出が二つある。

一つ目は、さくらが来てから家族の生活が大きく変わったことだ。まず、さくらがいたずらしたり、だっ走したりしないように、戸じまりをしつかりするようになった。書類の多いお父さんの部屋や窓は開けっぱなしにしたらずい家族みんながそう思った。そして気づいたときには冷蔵庫、だつ衣所、トイレのふたなど、お父さんの部屋と窓以外も戸じまりをするようになった。

次に、食べ物のお出しっぱなしや食べ方、食生活が変わった。おかしを出しっぱなしにしたり、ご飯をこぼしてそのままにしたりしているとさくらがなめちゃうと思った。だから、家族みんな自分なりに考えた。上の弟は片づけるのがめんどくさいと思い、おかしを

あまり食べなくなった。下の弟は、そう除をするのがいやだからご飯をこぼさないように工夫して食べるようになった。ぼくは、食べ終わった食器をちゃんと片付けるようになった。

最後に心にゆとりを持てるようになった。イライラしている時やつらい時なぜかさくらをさわっていると、いやな気持ちを忘れることができた。だからさくらが来る前と比べたらいつもの生活が楽しいと思えるし、兄弟げんかが少なくなった。

二つ目は、さくらは水が大好きなことだ。最初は、家の中にある観葉植物に水をあげている時に気になって見に来るだけだったが、家に来てから少しすると、自分で水を出して勝手に水浴びをするようになった。このことを知って今、ねこ用の給水機を買ってあげようか家族で考えている。

もうすさくらが家に来て一年が経つ。ふり返ってみればいろいろな思い出ができて、この一年がすごく長く感じた。でも来年からは中学生になり、部活やテスト勉強でさくらと遊ぶ機会が短くなると思う。だけど、さくらは同じ家の中にいる。だからいつでも会える。遊ぶ時間が短いと思うならこの短い時間を大切にして、いっしょに過ごしていきたいと思う。ぼくはさくらのおかげで、時間の大切さにも気づいた気がする。